

グループホームぽっぽ大手町

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で法人理念である「人を大切につながり大切に」を共有し、理念の意味を理解して、いつでも意識できるようにしている。	人としての意識を大切にされ、皆で互いに扶助し合っていく事の大切さが謳われた理念であるといえる。毎朝の唱和が職員の意識向上と共有化を促らせている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、従来行っていた地域の散歩、駅前の商店街に買行くなどという外出ができなかった。	現在はコロナ禍の最中にあり、地域としても事業所としても感染防止対策されており、交流は難しい情勢にある。回覧板により地区の情報把握はされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域住民に施設での介護内容を説明し認知症を理解して頂く機会を設けたり、地域の掃除当番に時々利用者と参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1度の運営推進会議で、地域包括、地域の方、利用者や家族を交えて、情報交換を行っている。	コロナ禍の影響もあり、参加者に不規則な面もあったが二か月毎の運営推進会議は開催されている。内部報告、運営上の問題などが話し合われサービス向上に繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	市の窓口で相談に乗っていただいたり助言をいただいている。相談員の方には施設内へ入っていただくことが出来ていない。	事業運営について相談に行かれている、などされており、市との連携性を守って行かれる事を大切にされている。これからは機会ある毎に接点の模索に務められてください。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束に関する勉強会を実施し職員1人1人が理解し業務に取り組んでいる	重要事項説明書や運営規定にも身体禁止の規定を記載している。身体拘束排除マニュアルも策定されている。事業所内では定期的に身体拘束に関する勉強会を実施され、職員一人ひとりが理解されるように取り組まれている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待に関する勉強会を実施し職員1人1人が理解し業務に取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	定期的にミーティング・研修を実施して、職員全体で共有している。。		

9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者、家族への説明を介護支援専門員と共に充分行い、重要事項の内容については納得・理解頂いた上で契約していただいている。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族に定期的に連絡を取り意見、要望を聞いている。また利用者個々が相談しやすい、話しやすい雰囲気、環境作りを心がけている。</p>	<p>利用者や家族が意見を出しやすい雰囲気が基本的にされている。聞かれた意見や要望の中には看護師に相談したり上部に判断してもらう事もあるが反映に努めている。</p>	
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は定期的に職員とミーティングの機会を設け、職員の意見・提案を聞き、業務に反映させている。</p>	<p>定期的なミーティング時も含め大手町会議やサービス向上勉強会、などでも意見の提出をされている。管理者は運営に反映できるように努めている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者と職員は常にコミュニケーションを図っており、不明な点があれば、すぐに話し合う環境ができている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修、内部研修など研修の場を多数設けている。研修後には職員間で共有できる体制を整えており、業務の改善にも繋がっている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>従来は地域主催の研修会にも積極的に参加していたがコロナ過のため直近では参加できていない。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際し、利用者と十分に話し、本人の家庭での生活状況、入居にあたり要望を聞き、安心して入居して頂いている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に不安や要望を聞き納得して入居頂いている。家族とのコミュニケーションを大切にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向・要望を把握して、安心して生活して頂くように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で職員は共に生活するという環境のもと信頼関係を築いている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過で面会に制限がある中で、主に電話で近況報告を行い家族との緊密化に努め安心感を持ってもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過のため面会制限があり以前の様に、家族、友人、知人とゆっくり過ごしてもらったり、スーパー、公園、買い物等の外出ができなくなっている。	知り合いの方の訪問があれば受けられている。家族の協力が有れば馴染みの所に出かけるようにされている。現在はコロナ過の為、家族との面談は間接的にならざるを得ない状態である。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々のできること、できないことを把握し、家庭的な雰囲気の中で助け合いながら生活している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、他施設に移られた際には、家族に連絡を取り状況を伺ったり、相談を受けたりしている。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向・要望を把握しているが、日々の行動、言動、表現も観察して個別ケアを取り入れている。	日常生活の中での行動や言動や表情をしっかりと観察されている。気が付いた事は介護日記に記録されたりミーティング時にも話されたりして共有化され改善へ繋がられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、これまでの暮らし・環境について情報を得るが、家族様との連絡を密にして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを尊重しながら見守り、利用者の希望・意向に沿った過ごし方をして頂きながら日々関わり把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望・意見を伺い、また日々関わっている職員からの意見も取りまとめて介護計画に反映させ作成している。	ケアマネが中心になって本人と家族の要望、意見を聞かれ、介護する関係職員の意見も、取り入れられて介護計画書が作成されている。期間は3ヶ月であるが利用者の状況によっては見直しは常に可能である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録表に利用者の様子やケアの実践・結果を記入して職員間で情報を共有しており、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の個々の状況に合ったケアを実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域のボランティアを紹介してもらい来て頂いていたが現在はなかなか来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に2週間ごとに往診に来てもらっている。また電話にて連絡、相談、報告をし、必要時には臨時に往診に来て頂いている。	従来からのかかりつけ医を希望されている方には、その医院の診察が認められている。事業所としても、その医院との密接な連携を行いながら、利用者の情報の共有を図るよう努めている。	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	施設内に看護師を配置しており、利用者様の状態把握や体調管理を行っている。受診の必要性の判断や助言を得ている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	診療情報やサマリーのやり取り、入院先での説明・情報提供により、病院の地域連携室と連携を行っており、退院後すぐに対応できるようにしている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族と充分に話し合い了承を得た上で、終末期には施設、家族、協力医と再度話し合い連携しながら進めている。	入所時に全般的な説明はされているが、重度化に向かい始めようとした頃から、事業所と家族と協力医との間で、延命治療入院か、看取り介助支援かの話し合いがなされる。家族の意向は十分に汲み取られるよう配慮されている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。またマニュアルがあり緊急時には速やかに対応できるように備えている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練や、地震対策訓練も行っている。また近隣の消防団と非常時の協力体制の確保に努めています。	出災の時に混乱されないように年2回の避難訓練が実施され、職員も緊急時の模擬体験をされている。地元の消防団の協力にも声掛けされており、利用者の安全確保に務められている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ち・人格を尊重することを心掛けている。また職員の研修で利用者に対する言葉づかい、対応の仕方を学んでいる。	尊厳の確保やプライバシー確保のマニュアルは整備され研修も行われている。職員の言葉使いは適切なものであり、研修に対する効果は確認されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の思い・希望を探ったり、利用者が自己決定できるような場を提供できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースに合わせるのではなく利用者個々のペースに合わせ、利用者の体調、気持ちに配慮するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3か月ごとに美容師にカットに来て頂いて身だしなみを支援したり、利用者が選択して洋服を決めたりおしゃれに配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には個々に食事形態に違いがあるので一口カット・ミキサー食等の提供をしている。片づけができる利用者には一緒に見守りながらしていることもある。	美味しく食事をしてもらう為に、まず高齢者にとっておかずを食べやすくカットされている。音楽も流されており楽しい食事時間を過ごされている。お手伝いは殆どの方は少し難しいようである	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	利用者全員の食事量や水分量を記録・把握して、利用者ごとの状態・状況に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が見守り援助し、毎食後に利用者全員が歯みがきをし、利用者に応じた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄一覧表に利用者の排泄をすべて記載しており、排泄パターンを把握するよう努めている。トイレの声掛けを行い出来る限りトイレで排泄するよう促している。	分かりやすく全ての情報を排泄一覧表に記録され、常に利用できるようにされている。時間がきたら声掛けをされる事も守られている。このやり方で現在は自立に向けて努力中である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳、ヨーグルトを提供し、また便秘ぎみの利用者には、おやつ時間に牛乳を提供したり、また水分補給を促している。		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ゆっくりと入浴できるように週2回の時間をとっている。体調によって変更したりして個々に応じた支援を行っている。	基本的に週2回は午前中に30分を掛けて入浴されている。入浴中は会話を交わしてリラックス感を味わうようにされている。リフト浴も完備されており無理のない支援をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況や体調によって昼寝や休息をとって頂いている。生活リズムを作り安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容は看護師を中心に職員も把握している。申し送りやミーティングの際に、注意すべき内容の周知を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や得意なことを把握して、その方らしく過ごせるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過のため、以前のように公園への散歩、買い物等が出来ない状況になっているが、コロナが落ち着いたら散歩・買い物に出かけられるような支援を行いたい。	利用者の安全確保が何よりも優先されなければならない事から、今は外出支援は大幅に制限されている。建物の一階がデイサービスであり、日曜日が休みの日である事から日光浴に利用されたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内ではお金を使う事はなく、またコロナ過のため買い物支援ができていない。コロナが落ち着けば買い物支援を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話されたい場合は、要件を伺い職員が電話をして本人様に話してもらっている。手紙が届いた場合は本人様に直接お渡しし、返信あれば支援を行う。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体をバリアフリーにしている。家庭的な雰囲気になるよう季節感をだす飾りつけをしたり、居心地よく過ごせるような配慮をしている。	リビング、居室、廊下、トイレ、風呂場は利用しやすい位置関係にあり家庭的な雰囲気にある。空調設備のお陰で過ごしやすく、また、壁の作品は親しみも覚える。バリアフリーは利用者にとって有り難い仕様といえよう。	

53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間兼食堂では、気の合った利用者同士が過ごせるように席の配置を工夫している。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に馴染みのある物を持ってきて頂き、可能な限り自宅に近い雰囲気与生活頂けるように工夫している。</p>	<p>馴染みの家具や使い慣れた物は自分の家を感じさせるものであり、心から安らげるように工夫されている。居室の掃除も行き届いて、気持ち良く生活できるようにされている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者が自分で出来る事は声かけ・見守りで支援し、自立した生活が送れるようにしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	②	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目：18, 38)	①	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	④	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る (参考項目：49)	④	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目：30, 31)	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、 求めていることをよく聴いており、信頼関係が できている (参考項目：9, 10, 19)	②	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねてきている (参考項目：9, 10, 19)	③	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)		
		②	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)		
		②	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		
		②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		
		②	①ほぼ全ての家族等が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない